

## 7. 発光信号

発光信号器は船橋に固定で設置されている大型発光信号器と携帯用の小型発光信号器がありますが、この発光信号器（ライトガン）は特定の方向へ光を断続的に発射するもので、ライトの点滅によるモールス符号で通信を行うものです。ライトを点滅するのではなく、レンズの前にシャッターがありこれを開閉することによって点滅の長短がモールス符号になります。

この輝度は大きくしかも特定の方向に光束が向かうので視界が及ぶ範囲であれば十分視認できるはずですが。

カリフォルニア号の当直者は水平線上にある大型客船に何が起きているのか解らないままに発光信号器を用いて問い合わせをしています。一方タイタニック号の船橋では近くに漂泊している停泊灯を認め、それに対して救助要請の信号を必死になって発信しています。停泊灯が十分に確認できる範囲であれば、発光信号は十二分に解読できるはずですが。事実何かチカチカしていたようだと発光信号があったことを認める証言を後の査問委員会で言っております。この方法での通信が始まって間もない頃ですから、モールス信号を読みきれなかったのではないかと思います。送信はできても、受信する技量はなかったのでしょうか。それならば就寝している通信士を起こせばいいのにそれさえもやっていない、重大性に全く気付いていなかったからでしょう。

私もベトナム戦争当時、ベトナム沖を南下中、米軍の駆逐艦から発光信号でスイカ（誰何）された時、とっさには理解できなくともう一度頼むと「・・・」（？）疑問信号を送って、応信したことがあります。発光信号を読めるようになるには相当な訓練が必要です。